

# 令和 6 年度 学校教育自己診断

## [報告]

【児童用】【生徒用】

【保護者用】【教職員用】

令和 6 年 11～12 月実施

令和 7 年 2 月

大阪府立中央聴覚支援学校

# 「令和6年度 学校教育自己診断」結果と分析

## 1. 実施について

- (1) 実施時期 令和6年11月27日～12月10日
- (2) 実施方法 アンケート調査(児童生徒13項目、保護者11項目、教職員13項目)
- ① Google フォームにて回答
  - ② 希望する児童生徒・保護者は紙媒体(プリント)で回収
- (3) 回答項目 「Aよくあてはまる Bあてはまる Cあまりあてはまらない  
Dまったくあてはまらない Eわからない」の5項目
- (4) 回収率 児童生徒 81%(-11P) ※( )前年度  
保護者 72%(+8P)  
教職員 57%(-41P)
- (5) 分析方法 回答中ABを肯定的な意見、CDを否定的な意見として分析した。

## 2. 概要

### ○児童生徒アンケート結果:回答率81%

「肯定的評価 全体平均」は、小1～4年が88.89%(-1.16P)、小5・6年が84.62%(+16.41P)、中高生徒が84.82%(+0.2P)とそれぞれなっている。また肯定的な意見90%以上の項目が小1～4年が4項目、小5・6年が2項目、中高生徒は5項目となっている。8割以上が肯定的な意見をもっていることが伺えた。一方で、「D:まったくあてはまらない」「E:わからない」の合計が2～3割となる項目があった。学校の教育活動を検証するにあたり、教職員の支援が適切であるか改めて確認しながら進めていく。

### ○保護者アンケート結果:回答率72%

「肯定的評価 全体平均」は、86.72%(+4.48P)で、昨年度より回答数が増えているなか、肯定的な意見が増えている。また肯定的な意見90%以上の項目が6項目あり、非常に高い評価である。ほとんどの項目で8割以上あるなか、⑨「学校や先生は、1人1台端末(タブレット)を積極的に活用している」は、昨年度に比べると+10.5Pと増加しているが、56.6%であった。

### ○教職員アンケート結果:回答率57%

回答率が-41Pと大幅に下がっている。今年度は、回答の有無も教職員の意向の表れであると校長は考え、年間を通してどの教職員アンケートにおいては教職員の自主性に任せるようにした。この自己診断アンケートも同様で、期限中にアンケートの意義や児童生徒・保護者の回答状況も示し、多忙さゆえの回答忘れ等がないように呼びかけることはあったが、回答率が大幅に下がった。校長としては、自分たちの学校経営に関わる意識の表れであると認識している。

「肯定的評価 全体平均」は、84.2%(-0.9P)となっており、肯定的な意見90%以上の項目は4項目あった。項目⑦「教育相談に関するもの」は+6.2Pや、⑬「管理職と教育活動について話ができる場」は+13.3Pと増加を見て取ることができる。しかし一方で、②「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」は-15.9Pで課題と考えられる。

### 3. 結果と分析

☆以下の文書中「〇%」については、注釈がなければ各項目の肯定的意見の割合【回答A%+B%】となる。また「(±〇P)」は、昨年度と比較した数字になる[例:昨年度80%→今年度83%(+3P)]  
今年度は学校経営計画に沿った内容を中心に分析する。

【1 学校に関わる全ての人が人権尊重の高い意識を持ち、安全に安心して学ぶことができる学校】

#### (1) 安全意識について

対象	肯定的な意見(±P)	質問項目
小1~4年	88.9%(-5.3)	⑬地震や火事の時のひなんのルールを知って守ったり、登下校時に交通ルールを守ったりしている。
小5・6年	88.9%(+8.9)	
中高生徒	70.2%(-4.8)	⑬避難訓練や安全教育を学び、普段から安全に対する意識が向上した。
教職員	95.0%(-0.1)	⑬学校は、諸活動において防災に関する取り組みや安全指導を行っている。

小1~4年では、肯定的な意見が88.9%(-5.3P)、中高生徒では70.2%(-4.8P)であった。若干の減少と、小1~4年「E:わからない」の回答が11.1%、中高生徒「E:わからない」の回答が10.8%であった。教職員の認識との格差もある。避難訓練等の際には、個人個人が自分で判断して行動ができる内容も一部盛り込んでいる。一方で、外部の方が立ち合った避難訓練の際には、教員からの指示やヘルメットが渡されるのを待つ生徒の様子があつたと指摘もあつた。令和6年5月には「セーフティプロモーションスクール(SPS)」の再々認証を受け、12月には石川県立の学校へ視察に行くこともあつたが、引き続き安全意識を高める活動を続けていく。

#### (2) 人権尊重の教育(児童生徒は、「道徳教育・人権教育に関するもの」)

対象	肯定的な意見	質問項目
小1~4年	88.9%(-11.1)	⑦外出時のマナーや交通ルールについて学習している。
小5・6年	77.8%(+17.8)	
中高生徒	94.6%(+4.6)	⑦命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。
保護者	94.7%(+5.5)	⑪学校や先生たちは、日常の教育活動において、お子さんの人権を十分に尊重している。
教職員	98.4%(+0.4)	⑫私は、幼児・児童・生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。

児童生徒への「道徳教育・人権教育に関するもの」は一定高い水準である。ただ、⑦「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」について、中高生徒の全体では94.6%(+4.6P)であるものの、「A:よくあてはまる」について22.2ポイントさがり37.8%だった。

保護者は「人権尊重の教育」について、肯定的な意見が94.7%(+5.5P)と高くなっている。しかしながら保護者の5.3%が「E:わからない」という回答であった。また、教職員も98.4%(+0.4P)ではあるが、中には「十分に人権を尊重し、日常の教育活動を行えているか?」と、常に自問しながら進めている教員

もいる。引き続き、教職員は人権を尊重した教育活動の実施と、教職員間で確認・認め合いながら進めていく。自由記述欄に「幼児児童生徒の呼称」については意見があったため、再度確認を行う。

### (3) いじめの対応

対象	肯定的な意見	質問項目
小1～4年	72.3% (+1.7)	⑤先生は、いじめや私たちが困っていることがあれば真剣に話を聞いてくれる。
小5・6年	88.9% (+22.2)	
中高生徒	81.1% (+6.1)	⑤先生は、いじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。
保護者	90.8% (+9.3)	⑤学校や先生たちは、いじめや子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。
教職員	83.6% (-1.5)	⑥学校(学部)は、いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。

中高生徒の肯定的な意見は 81.1% (+6.1P) で、「B:あてはまる」が 29.7% (+14.7P) が増えている。小1～4年では「A:よくあてはまる」が 66.7% (+19.6P) だが、「D:まったくあてはまらない」「E:わからない」で合計 27.8% が回答している。学校は、大阪府実施のアンケートの他、学校独自のアンケートや面談をとおして、早期発見・対応をおこなっている。しかし、対応の不十分さや、「対応してもらえないかわからない」という気持ちの表れとも取ることができるため、引き続き感度を上げ、適切に対応していく。

保護者の肯定的な意見は 90.8% (+9.3P) であり、特に「A:よくあてはまる」が +12.0 ポイントとなっている。しかしながら保護者回答で「D:まったくあてはまらない」の回答は全体の 1.3%、「E:わからない」が全体の 7.9% であった。児童生徒と同様、学校が把握ができていないもの、または把握しているが、十分に対応できていないものがあるとも考えられる。普段からの様子の把握やアンケートでいじめの訴えない場合でも保護者と共有し、家庭等での気づきについても情報提供を呼びかけていきたい。

教職員の肯定的な意見 83.6% (-1.5P) のうち、「A:よくあてはまる」が 24.6% (+8.8P) となっている。学校では、月2回の校内委員会で全校の幼児児童生徒について困り感等の情報共有と方策の検討、月1回のいじめ防止・対策委員会では幼児児童生徒の人間関係の把握や、各学部等での対応について確認・検討を行っている。各ご家庭や、必要に応じて関係機関とも連携しながら進めている。

## 【2. 子どもたちが自身の将来像をイメージし、それに向けて必要な力を身につけることができる学校】

### (4) R6年度 学校生活の満足度(学校生活・授業・学校行事・進路の肯定的な意見)

対象	学校生活	授業	学校行事	進路	満足度
小1～4年	88.9%	100%	100%	88.9%	94.45%
小5・6年	100%	88.9%	88.9%	77.7%	88.87%
中高生徒	75.6%	91.9%	91.9%	86.5%	86.47%
保護者	93.4%	78.9%	-	82.9%	95.06%
教職員	-	75.4%	93.4%	86.9%	85.23%

児童生徒の学校生活の満足度平均としては、89.93%で、昨年度よりも 4.9 ポイント上がっている。そのなかで、中学部・高等部生徒の⑧「文化祭・運動会・修学旅行などの行事は楽しい」91.9% (-3.1P) だ

が、「A:よくあてはまる」が 51.4% (-26.1P) となっている。それなりに楽しい学校生活ではあるが、生徒たちが主体的に活動できているかどうかを今後検証していきたい。

また、進路については、④「学校の先生たちは、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が児童生徒全体で 82.9% (+6.0P) で、特に「A:よくあてはまる」は、+8.7 ポイントとなっている。ただし、全体の 10.5% が「E:わからない」と回答している。特に小学部では 20% と、多い。小学部は 6 年間あるため、進路に触れる機会は少なくなると考えられる。本校ではロールモデルとなる方々を講師として招き講演や交流を積極的に実施しているが、将来の進路や職業について考えることが大事であるため、事前・事後指導の在り方や「キャリア教育プログラム」の活用を検証したい。また、卒業学年の保護者に対しては進路ガイダンスにおいて、進路選択のポイント等を積極的に提示していきたい。

#### (5) わかる授業(学習指導に関するもの)

対象	肯定的な意見	質問項目
小1~4年	100% (+5.9)	②授業がわかりやすい。
小5・6年	88.9% (+28.9)	
中高生徒	91.9% (-0.6)	
保護者	78.9% (+1.9)	②お子さんは、授業がわかりやすいと言っている。
教職員	75.4% (-1.8)	①私は、前年度より必要な視覚支援や ICT 機器を活用した授業を行い、専門性を向上することができた。

児童生徒の回答では概ね 90% 以上が肯定的な意見であった。少人数の良さを生かし、個々の課題に合わせた教員の学習支援や、児童同士・生徒同士の学び合いが進んでいる結果だと考えられる。一方保護者の回答では微増で 78.9% に留まっており、保護者全体の 13.2% の方が「E:わからない」と回答している。「わかる授業」の様子を、保護者とも共有しながら進めていく必要がある。教職員の回答は、視覚支援や ICT 機器を活用した授業が「昨年度より」ということで伸びなかったが、児童生徒の回答から考えると「わかる授業」に関しては、もう少し肯定的に捉えても良さそうである。ただし、中高生徒で「A:よくあてはまる」を回答したのが 27.0% (-10.5P) であるため、研修や研究授業・相互見学等をとおしてスキルアップを図りたい。なお、今年度 2 回実施した授業アンケートの平均は 100 点換算で 91 点であった。

#### (6) 交流・発表の充実

対象	肯定的な意見	質問項目
小1~4年	100% (+5.9)	⑫社会見学や交流会などの学習は楽しい。新しいことを知れた。
小5・6年	77.8% (+4.5)	
中高生徒	75.6% (+0.6)	⑫他校や地域との交流や発表に参加してよかった。

児童・中高生徒の回答では、それぞれ肯定的な意見が増えている。しかし、中高生徒の肯定的な意見は 75.6% (+0.6P) であるが、「A:よくあてはまる」を回答したのが 27.0% (-18.0P) と減少している。多角的な取り組みをしてきているが、相手校の人数の規模や年齢、聴覚支援学校どおしの場合等、児童生徒の気持ちの負担等にも配慮した取り組みが求められる。

発表では、昨年度の大阪府立学校保健研究大会での中学部の生徒会の発表内容が、大阪府の代表として「全国健康づくり推進校表彰事業」に選出され、支援学校で唯一の最優秀校に選ばれた。今年度も研究大会

で発表を行った。また、授業や交流の際には、何度も推敲した内容で発表を行うことができている。児童・生徒へ交流・発表での学びについてフィードバックしながら、引き続き取り組みを進めていく。

#### (7) ICT 機器活用力

対象	肯定的な意見	質問項目
小1～4年	77.8% (+7.2)	⑨授業や学年活動でタブレットを使うことがある。
小5・6年	100% (+20.0)	⑨授業や学年活動でタブレットを使うことがある。
中高生徒	78.3% (-4.2)	⑨授業や学年活動でタブレットを使用することが増えている。
保護者	56.6% (+10.5)	⑨(幼稚部以外)学校や先生は、一人一台端末(タブレット)を積極的に活用している。

授業等での活用が増え、保護者も含めて概ね肯定的な意見が増加している。ICTの活用が進んでいるため、中高生徒の「使用することが増えている」の意味では、現時点ではこれ以上の伸びることは難しいと考えられる。聴覚支援学校にとっての、ICT機器のより有効な活用の模索と学校として共通した取り組みを進めていく。

### 【3. 教職員が自分の役割を理解し、責任感を持って生き生きと業務に向かうことができる学校】

#### (8) ICT 機器活用力

対象	肯定的な意見	質問項目
教職員	75.4% (-1.8)	⑩私は、前年度より必要な視覚支援やICT機器を活用した授業を行い、専門性を向上することができた。

前項目と同様、授業等での活用が増え、教職員の「前年度より」という質問の意味では、現時点ではこれ以上の伸びることは難しいと考えられる。板書等の授業の基本を再確認しつつICT機器の使用のバランスなどを考え、児童生徒のより主体的な学びにつながるように、研修や研究授業、相互見学に取り組んでいく。

### 【その他】

#### (9) 教職員のコミュニケーション

対象	肯定的な意見	質問項目
小1～4年	77.8% (-22.2)	⑩先生のお話(声・口形・手話・指文字など)はわかりやすい。
小5・6年	77.8% (+11.2)	
中高生徒	97.3% (+7.3)	⑩先生の話(声・口形・手話・指文字など)は分かりやすい。
保護者	90.8% (+9.3)	※⑩学校や先生たちは、お子さんの障がいについてよく理解している。
教職員	95.1% (±0)	⑩私は、幼児・児童・生徒の障がい理解、自身の手話技術の向上、聴覚障がい教育の専門性向上に努めている。

上記項目の「E:わからない」については、小1～4年:11.1%、小5・6年:11.1%、中高生徒:2.7%、保護者:5.3%、教職員:1.6%となっている。「わからない」と思う気持ちが少しでも小さくなるように、教職員は引き続き障がい理解、自身の手話等のコミュニケーション技術の向上、聴覚障がい教育の専門性向上に努めていく。

(10) 肯定的な意見が10ポイント以上下がっているもの

(小1~4年)

③「先生は私たちのことを大切にしている」88.9%(-11.1P)

※「A:よくあてはまる」の回答は88.9%(+30.1P)

⑦「外出時のマナーや交通ルールについて学習している」88.9%(-11.1P)

※「A:よくあてはまる」の回答は83.3%(+12.7P)

⑩「先生のお話(声・口形・手話・指文字など)は分かりやすい」77.8%(-22.2P) ※再掲

※「E:わからない」の回答が11.1%

(中学部・高等部生徒)

①「学校に行くのが楽しい、または、学校生活が充実している」75.6%(-11.9P) ※再掲

特に「C:あまりあてはまらない」の回答が16.2%(+11.2P)と否定的意見が大きくなっている。

③「先生は私たちのことを大切にしている」が86.4%(-6.1P)

「A:よくあてはまる」が40.5%(-12.0P)となっている。

小学生の③や中高生の③については、児童生徒との向き合い方について振り返る必要がある。

(保護者)

⑦「学校の先生たちは、教育の情報について提供の努力をしている」86.8%(-2.4P)

この項目以外は、どの項目も1.9%以上増加している。項目⑦に関しては、「A:よくあてはまる」が+4.9ポイントであったが、全体の11.8%が「E:わからない」と回答している。

教育の情報発信については今年度より高等部Instagramを開設したり、各部・寄宿舍で行事の様子をホームページに掲載したりしているが、個人情報の取り扱いの難しさもあり、インパクト面で制限がある。情報の取りやすさ(ホームページの整理など)や保護者のニーズについて確認していきたい。

(教職員)

②「学校は、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」67.2%

(-15.9P) ※「C:あまりあてはまらない」が+8.5%、「E:わからない」が+8.1P

「学校経営計画」や各学部の教育課程、学校行事等において、実施後のアンケートや反省会を行う等、PDCAサイクルを意識はしているものの、教職員の多忙さも背景にあり、時間をかけて振り返り、次に生かされていらないと思われる。学級や保育・授業における「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」等のPDCAについてもチームでの共有等、運用においては十分できていないことも考えられる。取組み内容の精選をはじめ、働き方改革の必要がここにも表れている。